

外国人講師を活用した授業実践報告

樟蔭中学校・高等学校英語科教諭 猪俣恵美子

1. はじめに

本校では平成25年度から中学校の身体表現コースに、平成27年度から中学校の総合進学コースに週1時間、外国人講師と日本人教員のチームティーチングで行う英語の授業を導入した。

当初外国人講師の活用の仕方について「英語に親しむ」観点からはゲームや歌の活動に偏りがちとなり不安が大きかったが、まずは外国の人と接すること、自分の英語が通じる体験を通して英語学習の動機付けとなればよいという思いで開始した。

本稿は身体表現コース中学3年生の2学期に実施した会話文を作成し発表する実践をまとめたものである。対象の生徒は中学1年の時から週1時間外国人講師の授業を受け、ゲームや歌、簡単なチャンツやスピーチの取り組みを経験してきた。本校では外国人講師との授業の実践例が少ないため、この実践例からさらに発展的な活動へとつながれば幸いである。

2. 本校の英語の目標

文部科学省が平成15年3月に『『英語が使える日本人の育成』のための行動計画』の策定を基に本校の高校の進学コースの目標として「英語で日常的なコミュニケーションができる」（英検準2級程度の会話力）と設定している。その目標から逆算して中学3年では「英検3級取得」を目標としている。そのために検定教科書を中心として特に英語の音声を中心にし、音読練習、スピーチなどの英語による発表、多読などの取り組みで四技能をバランスよく身につける授業を意識している。

3. 実践報告

3-1 概要

＜場所＞ 樟蔭中学校 3年桜組 30名（女子のみ）
このクラスは身体表現コースのクラスで、表現する活動は活発に取り組むことができる。

＜テーマ＞ My Favorite Person or Group

＜目標＞ テーマについてペアで自分の意見を発表できるようになる。

＜配当時間＞ 4時間（期間は3週間）

＜授業計画＞①第1時 テーマの提示と自分の好きな人についてブレインストーミング。

②第2時 自分の好きな人について英語で紹介文を書く。

③第3時 ペアを作って会話文に仕上げる。
仕上げたペアは正しい発音を意識し、作成した会話文を覚える。

④第4時 発表、評価、反省。
発表する時は笑顔、アイコンタクト、話すスピードを意識する。
発言を聞くときは発表者が発表しやすい雰囲気作りを意識する。

＜教材＞ オリジナル：サンプルのスキット

A: Mayumi B: Kaori

A: Kaori, who is your favorite person or group?

B: Well, I like Arashi, especially Jun Matsumoto.

A: I think he is cool. Why do you like him?

B: Because he is artistic. He is a director of Arashi Concerts. He makes Arashi Concerts wonderful.

A: Have you ever seen him?

B: Yes, I have seen him at their concert once. Who is your favorite person or group, Mayumi?

A: Well, I like Kosuke Kitajima.

B: Who is he?

A: He is a good swimmer. He got the gold medals at the Olympic Games.

B: Have you ever seen him?

A: No, I haven't. He sometimes teaches how to swim to kids in Tokyo, so I want to meet him in Tokyo some day!

B: I hope you will.

3-2 授業の実際と所感

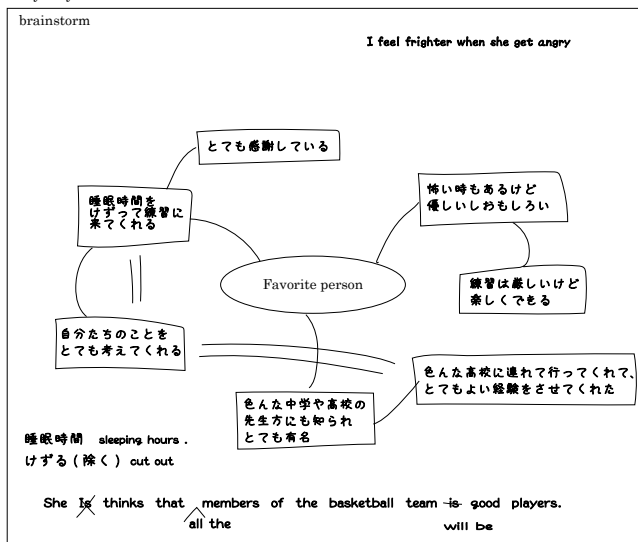
<第1時>

ブレインストーミングは1学期に初めて行った時に比べて、思いつくアイデアをたくさん書けるようになった。さらに内容につながりのある言葉同士をまとめられる生徒も出てきた。訓練すればするほど上手になっている(図1, 図2)。

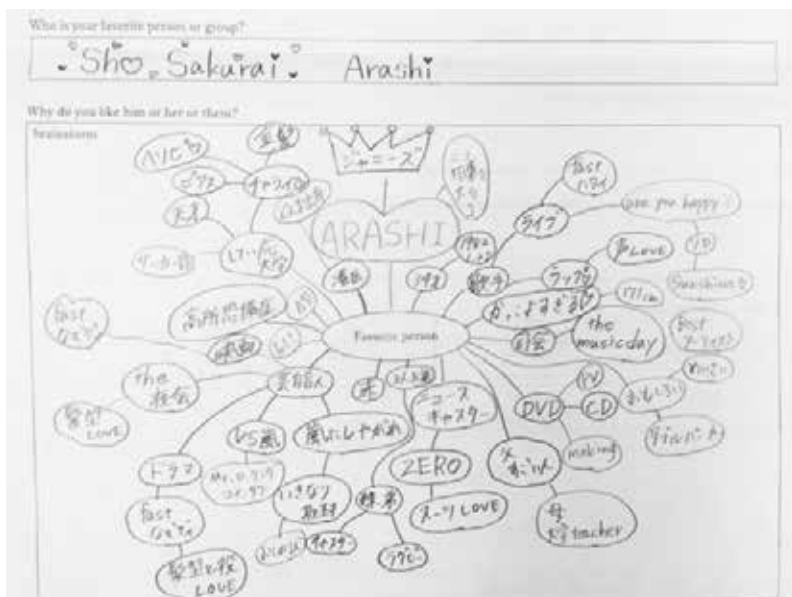
Who is your favorite person or group?

Ms. Okada

Why do you like him or her or them?



(図1)



(图 2)

<第2時>

ブレインストーミングのおかげで書きたい内容が無い生徒はいない。書きたいことはあるが間違いを恐れずとにかく英文にすることに留意する。教員は個々の英文を文法的に正しい、スペルが正しいレベルまでチェックして添削する(図3)。教員が添削することで生徒は発表に向けて自信を持つことができる。

Introduction

I like Evgenia Medvedeva. She is a figure skater.
She is a good skater. I like her because she's very very beautiful.
She has big eyes. She has long legs. She is from Russia.
Her birthday is November 19.
She likes Sailor Moon.
She won many medals.
So I like her.

(図3)

<第3時>

個々が作った紹介文を会話文へと作り替えていく（図4）。場面は「休み時間の教室で友達と話す内容が好きな人の話題になる」と指定し、発表の際聞き手が楽しめる工夫やリアクションを加えたり、内容も教材のサンプルスキットよりもオリジナリティがあふれるものは評価で加点することを伝える。早く仕上がったペアは発音練習や実際に動きを取り入れて練習した。

Making Skit about Favorite Person or Group

A: Natsuki B: Yumi

A: Yumi, who is your favorite person or group?

B: Well, I like Chimari Coach.

A: I haven't talked to her. Why do you like her?

B: Because she is very cute and gentle.

A: What does she do?

B: She is my rhythmic gymnastics coach and a Shoin Junior High School teacher.

B: Her team won a gold medal last year. A Really? B Yes!

B: And she came to Shoin Junior High School in April. I was happy to meet her. Who do you like, Natsuki?

A: I like Evgenia Medvedeva. She is a figure skater.

B: I don't know her. Why do you like her?

(図 4)

発表の評価は5項目について採点した(図5)。発表は工夫したペアほどうまくできていた印象がある。発表者も聞き手も素晴らしかったため授業の雰囲気はとても良かった。全員発表が途中でつかえることなくやりきることができた。中学1年の時は英文1文でも発表できない生徒がいたが、その頃から比べると発表する力はかなりついたと感じる。

	No.		
pronunciation	1	2	3
rhythm	1	2	3
intonation	1	2	3
memorization	1	2	3
attitude	1	2	3

[illegible]

4. 終わりに

実践を通して2つの課題が見えてきた。1つは活動内容の発展、もう1つは評価方法の改善である。

活動内容の発展については、スピーチや簡単な劇、紙芝居などの活動を通してさらに発展した活動ができる可能性が出てきた。例えば Show & Tell やそれからさらに発展した簡単なプレゼンへと活動内容を広げるなどである。

評価方法の改善としては、今まで定期テストを重視して特に reading や writing の面を評価していたことから脱却し、外国人講師を活用することで四技能のバランスの取れた評価へと移行できる大きなチャンスとなった。

今後英語の資格試験が進学等に大きく影響していく時代となる。大半の英語の資格試験は四技能に関してバランスよく採点・評価している。当然だが英語の授業も四技能の活動がバランス良く盛り込まれているものが求められている。そのために外国人講師活用は大切な要素と言える。これからも実践を重ね、情報交換をすることで本校の英語教育が発展することを期待したい。